

東備西播定住自立圏共生ビジョン懇談会の懇談要旨（報告）

共生ビジョン懇談会は、中心市において定住自立圏共生ビジョンの策定又は見直しを行うにあたって毎年開催することとなっており、27年度は12月17日に備前市役所において開催致しました。

会議では、平成27年度共生ビジョンによる取組み状況を報告した後、平成28年度の新規事業を含む共生ビジョン内容について協議を行い、ご承認をいただきました。

今回の会議における委員各位及びアドバイザーからいただいた主なご意見等は、次のとおりです。

【教育】

- ・トップアスリート招聘事業について、個々の競技を1回で終わらせてしまうのではなく、個別指導など事業内容を充実してもらいたい。

【産業振興】

- ・赤穂・上郡・備前が連携した周遊的な観光ルートを作れば面白いのではないか。

【地域公共交通】

- ・JR利便性向上事業について、どのような要望がなされ、それに対するJRの考え方はどうなっているのか。
- ・圏域バス（ていじゅうろう）の運行について、10月から事業者が変わったため備前ルート利用者が下降気味になっており、改めて宣伝や広報をしてはどうか。

【ICTインフラ整備】

- ・「ともリンク」へのヒット件数等を教えほしい。必要な人に必要な情報が行き渡っているかどうかを判断するのに一番わかりやすいのがヒット件数だと思う。まず、そこへアクセスがなかったら、その情報の価値はないという判断ができるのではないか。

【地域内外の住民との交流・移住促進】

- ・孫ターン（地域から出て行ったお子さんの子供、つまり孫を呼び戻す）ということをやっている自治体があるが、働く場所や高校の学科の充実などの受け皿も含めて考えてほしい。

【その他】

- ・これまでも子育てが全ての中心にならないかと提案しているが、今までの事業から何ら変わることがない。子育てを中心にしたプロジェクトチームを作って進めてもらいたい。

《アドバイザーのコメント》

次の3つを視点として提案する。

1つ目の視点は、「みんなが共に生きてみんなが育ち、みんなが力を合わせて学び・育ち・子育てができる」地域づくりが、最も重要かつ有効だと考える。

2つ目は、「子ども観」の考え方を変えていく。子ども・若者は、学び・育ちの「当事者」であり、ただ、保護され、教育され、育てられるだけの受身的な対象ではなく、地域づくりの「参画者」である。

3つ目は、3市町間のネットワーク化をさらに図っていく。

以上の3つの視点から、具体的な取り組みを次のとおり提案する。

1番目は、3市町の子育て支援関係機関（役所の担当部署）・地域の団体・グループ等との連携による「広域子育て支援ネットワーク」の形成を図ること。

2番目は、3市町に所在する高校（赤穂高校，上郡高校，備前緑陽高校【備前市立片上高を含む】）の「人気回復」を図る「活性化」策の推進を図ること。

3番目は、3市町の保幼・小・中の連携・一貫教育の推進を図ること。

4番目は、大学生や若者に「ご当地アイドル」グループとして参加してもらい、さまざまなイベント（とくに子育て支援関係のイベント）で、ご当地キャラクターとともに活躍すること。

以上、子ども・子育てというところに観点を置いて、若者たちの参画、子どもたちの参加という点から提案させていただく。